

第3回 JA 販売戦略支援セミナー（大阪）開催される

JA の経済事業改革の要である販売事業の強化のため、(社)農協流通研究所は18年2月24日大阪市北区の大阪 JA ビルにおいて西日本地区を対象としたセミナーを開催した。セミナーは JA 全中、JA 全農の協賛により、JA 全農県本部、経済連、JA、卸売会社など60名強が参加して行われた。

JA 全中経済事業改革推進部甲斐野次長が「JA 経済事業改革と系統販売事業」について講演し、JA 全農岡山県本部竹村営業開発グループ長から「全農岡山県本部における販売戦略」、JA 甘楽富岡吉田営業事業本部長から「首都圏における JA 販売戦略と今後の方向」、JA 福岡嘉穂中嶋直販課長から「インショップの導入による JA 販売の多元化」、JA 全農大阪青果センター加藤営業開発部長から「JA 全農大阪青果センターの販売戦略」がそれぞれ報告された。

パネルディスカッションには小野雅之神戸大学教授もコーディネーターに加わり、参加者との活発な意見交換がなされた。

JA 全農岡山県本部竹村リーダーからは「県内12JA のうち光センサーを持っているのは3JA で、県本部自身が光センサーを整備し桃の選果をし JA の負担を軽減している。インショップ事業は主に JA で、大型生協や広域販売は県本部でと役割分担している。ラ・フランスなど県内にはない品物については他県本部・経済連と連携している」。JA 甘楽富岡吉田本部長からは「首都圏35店舗でのインショップ事業は規格にこだわらず、高齢者でも参加できるシステムにしているので成功した」、JA 福岡嘉穂田中産直副会長からは「インショップ事業には、今は買い取り方式と消化仕入れ方式があるが今後は市況に影響されない消化仕入れ方式になる。今まで農協に出荷していなかった農家もインショップ事業の導入で農協に出荷するようになったという成果も見逃せない」などの発言がなされた。



第3回 JA 販売支援セミナー パネルディスカッション（大阪 JA ビル）